



- ◎地域医療支援病院
- ◎地域がん診療連携拠点病院
- ◎病院機能評価認定病院
- ◎臨床研修指定病院

第2号 平成20年11月1日発行



消化器病センター開設

1周年を迎えて

消化器科部長・消化器病センター副センター長 江尻 豊

消化器病センターは平成19年7月に開設され、このたび1周年を迎えることが出来ました。

去る10月10日に開催した記念講演会は、150余名の参加者により盛会の内に終了することが出来ました。講演会ではまず消化器病センターの活動報告をさせて頂きました。平成19年度の紹介患者数は2390人（前年度比+136人）、逆紹介患者数は2465人（前年度比+318人）と増加しており、紹介率は76.5%に達しております（平成20年度は9月末現在で83.5%）。これは病診連携が効率よく機能している結果であると考えています。

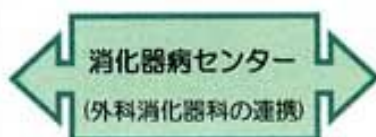
特別講演として、産業医科大学内科学第三講座 原田 大 教授から「ウイルソン病の基礎と臨床」のご講演を賜りました（座長：福島県立医科大学内科学第二講座 大平弘正教授）。

消化器病センターの開設により、消化器科と外科との連携は勿論のこと、コメディカルスタッフとの連携もさらに強化されております。さらに腹部CT、腹部超音波や消化管内視鏡などの先進医療機器の新規導入も伴い、高度かつ安全な医療が提供できる診療体制が整っております。

今後とも、地域の医療機関の皆様のご協力を得ながら、信頼される診療を心がける所存でおりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



外科医師



消化器科医師





看護部からこんにちは！（手術室編）

こんにちは！看護部の部署紹介1番バッテリーとして手術室を紹介させていただきます。
お髭がトレードマークの手術部部長の外科宮澤医師を囲むように15名のマスク美人（？）看護師が毎日朝から晩まで奮闘しております。昨年度の全身麻酔件数は1100件を超えて、手術総数は1700件を超える程です。昨年は消化器病センターの立ち上げの影響もあり、外科の臨時手術が急増しました。県内でも1～2を争う手術症例数といわれています。忙しい毎日ではありますが、手術を受ける患者様の安心と安全とを常に考え、手術中麻酔で眠って何も言えない患者様に代わり私たちが代弁できるような細心の注意を払い手術看護を実施しております。

病院内で**ピンクの帽子・ピンクのユニフォーム・ピンクのマスクの全身ピンクづくし**（林家ばーこさんではありませんが・・・）を発見したら声をかけて下さいね。それが私たち手術室看護師です。

マスクをはずしたら素敵な笑顔に出会えますよ！！



霜が降り始める11月、わくわくするクリスマス、長いお正月休みがある今年の冬。今回は、インフルエンザの予防についてのお話です。

インフルエンザはインフルエンザウイルスの感染によって起こります。

症状は38～40度の発熱、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感、喉の痛み、鼻水、咳などが見られます。1～5日間の潜伏期間がありますが、検査をすると診断がつきますので、前述の症状が複数あるようなら、病院を受診しましょう。



<< 予 防 法 >>

- ・家に帰ったら、うがいと手洗いを習慣づけ、栄養バランスのとれた食事を心がけ、睡眠を十分にとり、健康管理に気を付けましょう。
- ・外出時は、マスクを着用し人ごみはなるべく避けましょう。
- ・ウイルスは、乾燥を好みます。室内の湿度を適度（50～60％）に保ちましょう。

※ワクチンの予防接種をしましたか？ 当院では10月1日から受付開始
注射は10月16日～12月11日の毎週木曜日の午後に実施しています。



耳鼻咽喉科医師
の鈴木康士です

「耳鼻咽喉科」



平成20年4月より耳鼻咽喉科を担当しております鈴木康士と申します。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、このいわき市に生まれ育ち、磐城高校を卒業後、福島県立医科大学医学部を卒業し、耳鼻咽喉科医となり、福島県立医科大学付属病院、愛知県がんセンター頭頸部外科などで研修を積んで参りました。地元いわきで少しでも患者さまのお役に立てればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

耳鼻咽喉科で扱う疾患としては、次のようなものがあります。

耳：難聴、耳鳴り、めまい、中耳炎、中耳真珠腫、顔面神経麻痺など

鼻：慢性副鼻腔炎、鼻ポリープ、アレルギー性鼻炎（花粉症）、鼻副鼻腔腫瘍など

咽喉（のど）：急性扁桃炎、急性咽喉頭炎、声帯ポリープ、咽喉頭腫瘍など

頭頸部：耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍、頸部腫瘍、頸部リンパ節腫脹など

私の専門分野としては、

- 1) 頸部腫瘍性疾患（耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍など）に対する手術治療
- 2) 慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍に対する内視鏡下鼻内手術

を積極的に行っております。

（手術日は毎週水曜日と第1, 3火曜日となっております。）

また、大谷巖院長による中耳専門外来（火曜・予約制）や中耳真珠腫の手術も行っております。

==☆☆==☆☆==☆☆==☆☆==

～診療科紹介～

==☆☆==☆☆==☆☆==☆☆==

「眼科」

眼科医師の
鈴木説子です



眼科は現在、火曜日から金曜日（月曜休診）の午前に外来診察を行っています。医師1名による診察のため、混んだ日には、待ち時間が長くなることもあります。患者さんひとりひとりに丁寧に説明し、納得されたうえでの診療を心がけておりますので、どうぞご理解のほどよろしくお願い致します。

また、水曜日の午後に手術治療を行っております。火、木、金曜日には視野検査、蛍光眼底造影検査、レーザー治療などの検査、治療を予約のうえ、行っております。

手術治療は主に白内障手術を行っており、現在のところ、入院していただいたの手術となっております。

その他、全身疾患（糖尿病、高血圧症、腎疾患、リウマチ膠原病疾患など）に伴う眼疾患についても、他科と連携をとりながら診療しております。近年増加してきている、加齢黄斑変性症、増殖性糖尿病網膜症、網膜剥離などの重症例に関しましては、福島県立医科大学付属病院をはじめとする専門機関への紹介、連携による診療も行っております。また、コンタクトレンズによるトラブル、小児眼科（斜視、弱視など）におきましても、どうぞご相談ください。



コ・メディカルだより



薬剤部 くすりは必要か？



くすりという言葉が辞書で引くと『心身に、特殊な効果や一定の影響を与えるもの。特に、病気や傷などを治したり、健康を保持したりするために、飲んだり注射したり塗布したりするもの。医薬品。』なんて説明が出てきます。みなさんくすりって病気やケガを治すモノだと思っていないですか？確かにいろいろな症状（痛み、熱など）はよくなりますが、病気そのものを治すくすりって意外と少ないのです。ですから辞書でも『健康を保持し…』ということが書かれているのだと思います。例えば血圧のくすりは飲めば血圧は下がりますが、飲むのをやめれば血圧は上がります。つまり病気自体を治しているワケではないということです。「じゃあくすりなんていらないでしょ」と言われそうですが、そんなことはありません。高血圧のくすりをやめてしまったらどうでしょう？脳梗塞など違う病気になってしまうかもしれません。

病院や医院などから出されるくすりには必ず理由があります。その理由を医師・薬剤師にぜひ質問してみてください。くすりのことだけでなく、いろいろなことが分かっただけだと思います。

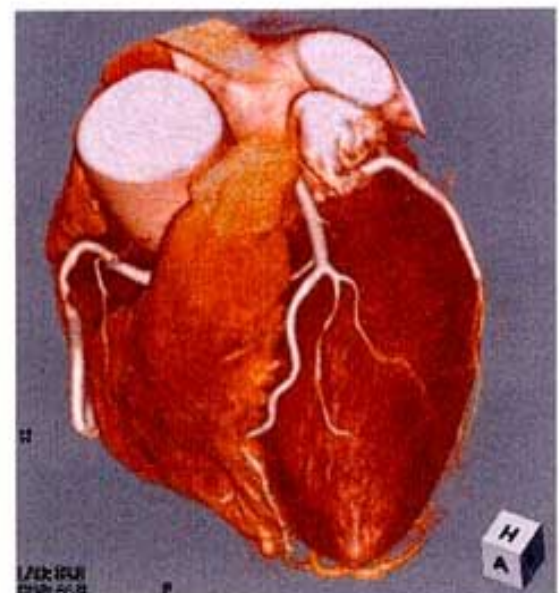


放射線科 心臓冠動脈 CT について

従来冠動脈を画像化するには、カテーテルを腕や足の動脈から挿入し造影剤を注入することによって描出していました。したがって、動脈に直接針を刺すリスクや、検査後安静などの必要性がある為短期間ではありますが入院をしないと出来ない検査です。

しかし、CTにて冠動脈撮影する際には、腕の静脈に針を刺しそこから造影剤を注入し検査するので、入院の必要はなく外来で行うことができます。

では、実際の画像例を提示します。



検査科 腫瘍マーカーの迅速診断を目指して

今年3月から検体システムが新しくなり、これまで院外で測定していた腫瘍マーカーが院内でできるようになりました。

そのため、腫瘍マーカー4項目（CEA・CA19-9・AFP・PSA）の迅速結果報告ができるようになりました。

腫瘍マーカーは悪性腫瘍のときに作られる物質で、以前は院外で測定していたため、結果が出るまでに2～3日かかり「結果は次の診察の時に…」という状況でした。



今回導入された機器では採血後約1時間で結果が出るので、その日のうちに癌の診断・治療効果の判定・経過観察・再発などが分かるようになりました。



リハビリテーション科 「廃用症候群」予防のために

当院リハビリテーション科での適応疾患は、整形外科疾患を中心に、外科疾患の開胸・開腹術後、消化器疾患、呼吸器疾患、そしてこれらが引き起こした二次的な合併症としての「廃用症候群」が含まれます。

そこで今回は「廃用症候群」について取り上げたいと思います。

「廃用症候群」とは病気や怪我などをきっかけに寝たきりの状態になってしまい心身の活動性の低下が起こることで筋力低下、関節が硬くなる、骨がもろくなる、立ち眩みの出現、心肺機能の低下、認知症などを引き起こす状態のことをいいます。

健康な人でも身体を使わないと「廃用症候群」は意外と早く進行し、寝たきりによる筋力低下は、1週目で20%、2週目で40%、3週目で60%にも及びます。

これらが病気の治りを妨げ、回復を遅らせることも多いのです。したがって、この寝たきりによる「廃用症候群」を予防することがとても大切であり、可能な限り身体の機能を日常生活の中で最大限に活用させていくことが重要です。

当科では「廃用症候群」の予防の為、ベッド上で自分で簡単にできる運動を指導したり、少しでも日中寝ている時間を少なくするためにご家族への生活指導などを行っています。



栄養管理室 食の安全を目指して

この一年、食品偽装から始まり、汚染米など、食を取り巻く環境は、かつてないほど大きく変わりました。私たち日本人は「何を信用し、何を食べたらいいのか？」わからなくなります。

当院は、問題の食品は取り扱っておりませんし、今後も患者様に安全で安心な食事を提供して参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

病院での療養生活に伴う食事に関するご質問なりご意見などをお聞きしたいと思います。ご連絡くださいね。

私は誰でしょう～？
(ヒント：前列右から2番目)



安全な食事を提供しているスタッフで～す。



栄養サポートセンター



当院では「栄養サポート」を医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、リハビリスタッフなどのメンバーによりチームで行っています。それをNST(Nutrition Support Team:栄養サポートチーム)といいます。

Q:どんな患者さんが対象なのでしょう？

A:食事が思うように進まない、「むせり」がひどく食事の量が減ってきた、などにより低栄養が心配な患者様、また逆に最近体重が増えたり、過栄養や偏った栄養摂取で慢性疾患が気になる患者様などの栄養に関する悩みをチームで解決致します。入院中の患者様だけでなく、「栄養外来」でも同じようなケアを実践しています。

栄養は身体を創る基盤となる大切なものです。栄養状態を整え、病気の早期回復や予防を考えるチーム医療がNSTです。





「今回は2つの講演会のお知らせです

～

どちらの講演会も入場は無料ですよ。」

第10回いわき地域がん診療連携拠点病院研究会主催講演会

日時：平成20年11月11日(火) 18:00 ～ 19:00
場所：当院大会議室
座長：福島労災病院 副院長 武藤 淳
演題：「甲状腺癌とその関連疾患について」
講師：公立大学法人福島県立医科大学 附属病院 教授
乳腺・内分泌・甲状腺外科 部長 鈴木 眞一 氏

第2回オンコロジーセミナーinいわき

日時：平成20年11月15日(土) 13:45 ～ 16:00
会場：創造館(ラトブ) 6F セミナー室
〒970-8026 福島県いわき市平字田町120番地 LATOV 6F
TEL 0246-21-7570 FAX 0246-21-7571
座長：福島労災病院 副院長 武藤 淳

<特別講演1> 13:45 ～ 14:45

『ターミナルケアで求められる私たちへの課題』

～ 最前線に立つ援助者の心のケア ～

財団法人 慈山会医学研究所 附属 坪井病院緩和ケア部 部長

渡邊 睦弥 先生

<特別講演2> 14:45 ～ 16:00

『抗がん剤の副作用対策とサポータティブケア』

大阪市立堺病院 技術部薬剤課 部長

阿南 節子 先生

福島労災病院理念

- ◎受ける人が主役の医療の実践
- ◎最善の医療・看護の提供
- ◎働く人の健康管理とリハビリテーションの実施

福島労災病院基本方針

- ◎痛み痛むかたの目線で公平な医療を行います
- ◎常に研鑽して高質な医療を安全かつ確実に提供し信頼される病院づくりに努めます
- ◎永年にわたる勤労者医療の実績を活かし働くかたの健康維持と早期社会復帰に取り組みます

♪♪ インフォメーション ♪♪

<<オーダリングシステム導入!!>>

当院では、平成20年12月1日から、オーダリングシステム（検査の依頼、指示、会計処理の電子化）を導入します。

システムを導入することにより、これまで人手を介していた伝票類がなくなり、業務の流れがスムーズになり、患者様の待ち時間が短縮されます。

また、患者様にお渡しする伝票類（処方箋・予約カード等）の書式が変わります。

導入当初は不慣れなため、お待ちいただく時間が長くなるかと思いますが、患者様に安心してご利用いただける病院作りのため、職員一同なお一層の努力をして参りますので、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



<編集後記>

紅葉の季節になりましたね。朝夕の冷え込みも増し、これからは1日での寒暖の差が大きい季節です。そして、暖房の恋しい時季です。身体に優しく・地球・財布にも優しくするために、私としては室内温度を18℃前後にしたいと心がけています（実際は22℃くらいになっていますが・・・）。

さて、当院広報誌「ふくろう通信」は、今年8月に患者様用広報誌として新たなスタートとして復刊しました。多くの患者様が手に取り、ご覧になって頂けた事、本当に有難い事だと思っています。

「ふくろう通信」は皆様のお声を参考に、より良い通信となるよう努力していきたいと思いまので、綴じ込みの「ご意見・ご感想」によりお聞かせ下さいますようお願い致します。

それでは、次は、平成21年2月号で!?

えっ!もう、来年の話。あと2ヶ月ありますよ。でも、ちょっと早いけど良いお年を。

by. A・K係長

◎ご意見・ご感想などをお聞かせください。

◎次回発刊は、平成21年2月1日を予定しております。



「ふくろう通信」は当院ホームページでもご覧いただけます

ホームページアドレス：<http://www.fukushimah.go.jp>